

雅歌の内在的な意義にしたがって主に対するわたしたちの愛を保持することによって、 主の出現を愛する	
つ の 段 階 主 に 対 す る 愛 を 保 持 し て、 主 の 出 現 を 愛 す る こ と の 六	I. 雅歌は一つの詩であり、その主題は一つの卓越した結婚における愛の歴史です。それが啓示しているのは、個人の信者とキリストとの愛の交わりの進展する経験であり、それは六つの主要な段階において彼の花嫁の用意を整えるためです
	A 引き寄せられ キリストを追い求めて、 満足を得ます (1:2-2:7) —彼との個人的で、愛情深い、私的で、霊的な関係
	B 召されて 、キリストの十字架との一を通して 自己から解放されます (2:8-3:5)—復活の力によって、自己内省から出て来る
	C 召されて、復活の中の新創造として 、昇天の中で生きる(3:6-5:1)—その霊の造り変える働きによって、キリストの行動する器、乗るもの「車」となり、命の豊富において円熟し、キリストの私的な園となります
	D さらに強く召されて 、復活の後の十字架を通して、 幕の内側で生きます (5:2-6:13)—造り変えられて天の光体、シユラムの女となり、命、性質、表現、機能においてキリストと同じになって、彼に符合して彼と結婚します。
	E 主の 働きにあずかる (7:1-13)—ソロモン(キリスト)の配偶者として、彼と共にすべてのぶどう園(召会と信者たち)を顧みる。
	F 携え上げられることを望んでいる (8:1-14)—彼女は「自分の愛する方に寄りかかって」、愛する方に、彼女を心に印のようにし、腕に印のようにすること求めます。そして彼との交わりを保持し、あらゆることが神の愛と保護する力にかかっていること、常に彼の声を聞く必要があるということ認識します。
結 論 の 言 葉	II. この詩的な書の 結論の言葉 として、 キリストを愛する者が祈り求めるのは、彼女の愛する方が復活の力(かもしかと若い雄鹿)の中で急いで戻って来て、全地を満たす彼の甘くて美しい王国(香料の山々)を設立して下さるということです
	A そのような祈りは、花婿としてのキリストと、花嫁としての愛する者との、新婚の愛の中にある結合と交わりを描写しています 。それは、キリストを愛する者であるヨハネの祈り(聖書の結論の言葉として)のようであり、彼の神聖な愛におけるキリストと召会に関する神の永遠のエコノミーを啓示しています
	B 「主が来られる時、信仰は事実となり、祈りは賛美に置き換わります。愛は影のない完全なものとなり、わたしたちは罪のない領域で主に仕えます。それは何という日でしょう！主イエスよ、早く来てください！

メッセージ 4

雅歌の内在的な意義にしたがって
主に対するわたしたちの愛を保持することによって、
主の出現を愛する

聖書：雅 1:2-4. 2:8-9. 3:9-10. 4:12-16. 6:10, 13. 7:11. 8:13-14

主に対するわたしたちの愛を保持することによって、主の出現を愛する六つの段階

I. 雅歌は一つの詩であり、その主題は一つの卓越した結婚における愛の歴史です。それが啓示しているのは、個人の信者とキリストとの愛の交わりの進展する経験であり、それは六つの主要な段階において彼の花嫁の用意を整えるためです——啓 19:7-9. マタイ 25:6-13. 啓 3:18-22. ゼカリヤ 4:1-6, 11-14. Iヨハネ 4:19. 詩 110:3. 119:140 :

***引き寄せられ**キリストを追い求めて、**満足を得ます**(1:2-2:7)—**彼との個人的で、愛情深い、私的で、霊的な関係**

A. 雅歌の第一段階において、キリストを愛する者は**引き寄せられ**彼を追い求めて、**満足を得ます**(1:2-2:7)。主は、彼を尋ね求める者が**彼との個人的で、愛情深い、私的で、霊的な関係**を持つことを願っています(1:2, 4)。すべての霊的な原則が、尋ね求める者の勝利を得る生活のこの第一段階に含まれています。それに続く学課は新しい

ものではなく、さらに深い方法で繰り返された以前からある学課です。

***召されて、キリストの十字架との一を通して自己から解放されます(2:8—3:5)—復活の力によって、自己内省から出て来る**

B. 雅歌の第二段階において、キリストを愛する者は**召されて**、キリストの十字架との一を通して**自己から解放されます**——雅 2:8—3:5:

1. 雅歌第2章8節から9節は、復活の活力について語っています。これらの節において、キリストは、「山々を飛び越え、丘の上を跳びはねて」いるのもしかや若い雄鹿にたとえられています。山々と丘は、困難や障害を指しています。しかし、復活のキリストを妨げるような高くて大きいものはありません。山々を飛び越え、丘の上を飛び跳ねるキリストの臨在を、わたしたちは尋ね求め、認識する必要があります。
2. キリストを愛する者は内省に陥ります。それは壁として隔離するものとなり、彼女をキリストの臨在から遠ざけます(雅 2:9 後半)。このゆえに、キリストは、彼女が起き上がり、低い状態から出て来て、彼と共にいるようにと励まします(10-13 節)。
3. わたしたちの天然の力によってではなく、復活の力によって、わたしたちキリストを愛する者たちは、彼の十字架と一となることによって彼の死に同形化されることが出来ます(14-15 節)。わたしたちはミングリングされた霊の中でキリストの復活にあずかり、経験します。キリストの復活によってわたしたちは十字架と一となり、自己から救い出され、神の新創造における新しい人へと造り変えられて、有機的なキリストのからだを建造することにおいて神のエコノミーを成就します(ローマ 8:2, 4, 29. ガラテヤ 6:15. II コリント 5:17)。

***召されて、復活の中の新創造として、昇天の中で生きる(3:6—5:1)—その霊の造り変える働きによって、キリストの行動する器、乗るもの「車」となり、命の豊富において円熟し、キリストの私的な園となります**

C. 雅歌の第三段階において、キリストを愛する者は復活の中の**新創造として、召されて昇天の中で生きます**——雅 3:6—5:1:

1. 昇天の中で生きるとは、絶えずわたしたちの霊の中で生きることです。わたしたちは霊の中で生きる時、天上の昇天したキリストに結び付けられます——エペソ 2:22. 創 28:12-17. ヨハネ 1:51. 啓 4:1-2. ヘブル 4:12, 16 とフットノート 1。
2. わたしたちの中でのその霊の造り変える働きによって、わたしたちはキリストの行動する器、キリストが乗るもの、キリストの「車」となります。それはキリストが、キリストのからだの中で、キリストのからだのために行動するためです——雅 3:9-10. 参照、II コリント 2:12-17。
3. わたしたちは神聖な三一で再建造されます。それによってわたしたちの外側の構造は、復活し昇天したイエスの人性となり、わたしたちの内側の装飾は、主に対するわたしたちの愛となります——雅 3:9-10。
4. キリストを愛する者は、キリストの昇天の中で生きることを通して、復活における新創造として、キリストの命の豊富において円熟します。それによって彼女は、キリストが私的に享受するためのキリストの園となります(4:12-15)。彼女はあらゆる状況や環境においてキリストの香りを漂わせる用意ができています(16 節)。

***さらに強く召されて、復活の後の十字架を通して、幕の内側で生きます(5:2—6:13)**
—造り変えられて天の光体、シュラムの女となり、命、性質、表現、機能においてキリストと同じになって、彼に符合して彼と結婚します。

D. 雅歌の第四段階において、キリストを愛する者は**さらに強く召されて**、復活の後の十字架を通して、**幕の内側で生きます**——雅 5:2—6:13:

1. キリストを愛する者は、幕の内側で生きることによって、造り変えられて天の光体となります。彼女は夜明けの光のように見え、月のように美しく、太陽のように明るいです——10 節。
2. キリストを愛する者はキリストの命の円熟において、シュラムの女（ソロモンの女性形）となります。これが表徴するのは、彼女が命、性質、表現、機能において（神格においてではない）、キリストと同じになっており、キリストの複製また複写として、彼に符合して彼と結婚するということです——13 節。Ⅱコリント 3:18。

***主の働きにあずかる(7:1-13)—ソロモン(キリスト)の配偶者として、彼と共にすべてのぶどう園(召会と信者たち)を顧みる。**

E. 雅歌の第五段階において、キリストを愛する者は、**主の働きにあずかります**——雅 7:1-13:

1. 雅歌第 7 章 11 節が示しているのは、キリストを愛する者が、一つの場所から他の場所に寄留する(村里に宿る)ことによって、彼女の愛する方と共に全世界(野)のための働きを完成することを願っているということです。これが示しているのは、彼女が主の働きを完成することで、分派的ではなく、働きを開放し、他の人がそこに来て寄留することができ、彼女が他の所に行き寄留することができるようにするという事です。これは一つからだにおける一つの働きを保つことです。
2. 主の働きにあずかることは、主と共に働くことです(Ⅱコリント 6:1 前半)。わたしたちは主と共に働くために、命における円熟を必要とし、主と一になる必要があります、わたしたちの働きは彼のからだのためでなければなりません(コロサイ 1:28-29。Ⅰコリント 12:12-27)。
3. シュラムの女はソロモンの配偶者として働き、すべてのぶどう園(雅 8:11)、すなわち全地の諸召会と信者たちを顧みます。わたしたちは全世界のための働きを持たなければなりません。これはパウロが行なったことであり、彼は諸地方召会を設立し、それから働いて諸地方召会をキリストのからだの満ち満ちた実現の中へともらしました(ローマ 16:1-24)。

携え上げられることを望んでいる(8:1-14)—彼女は「自分の愛する方に寄りかかって」、愛する方に、彼女を心に印のようにし、腕に印のようにすること求めます。そして彼との交わりを保持し、あらゆることが神の愛と保護する力にかかっていること、常に彼の声を聞く必要があるということ認識します。

F. 雅歌の第六段階において、キリストを愛する者は**携え上げられることを望んでいます**(雅 8:1-14)。彼女は「自分の愛する方に寄りかかって」(5 節)、荒野(地的な領域)から上って来ます:

1. 「愛する方に寄りかかって」が暗示していることは、ヤコブと同じように、彼女のものつがいが触れられて、彼女の**天然の力が主によって対処された**というこ

とです——創 32:24-25。

2. 「愛する方に寄りかかって」が暗示していることはまた、彼女が自分がひどく圧迫されているのを見いだしており、これが荒野の行程が終わるまで続くようであるということです——参照、Ⅱコリント 1:8-9, 12:9-10, 13:3-4。
3. 彼女は彼女の愛する方に、彼女を彼の愛の心に印のようにし、彼の力の腕に印のようにするように求めます。この時点で彼女は、自分には力がなく、望みもないと感じており、あらゆることが神の愛と保護する力にかかっていることを認識しています——雅 8:6-7。

雅 8:6 「わたしをあなたの心に印のようにし、あなたの腕に印のようになしてください。愛は死のように強く、ねたみはシェオール [陰府] のように残酷だからです。そのきらめきは火のきらめき、エホバの炎です。

雅 8:7 大水も愛を消すことができません。洪水もおぼれさせることができません。もし、人が自分の家の財産をことごとく与えて、愛に換えようとするならば、限りなく卑しめられるでしょう。

4. キリストを愛する者は、キリストの園である信者たちの中に住んでいる方が、自分にキリストの声を聞かせてくださるよう求めます。これが示しているのは、わたしたちがわたしたちの愛する方である主のために働くとき、わたしたちと彼の交わりを保持し、常に彼に聞く必要があるということです——13 節。

結論の言葉

Ⅱ. この詩的な書の**結論の言葉**として、キリストを愛する者が祈り求めるのは、彼女の愛する方が復活の力(かもしかと若い雄鹿)の中で**急いで戻って来て**、全地を満たす彼の甘くて美しい王国(香料の山々)を設立してくださるということです——雅 8:14. 啓 11:15. ダニエル 2:35:

雅 8:14 わが愛する方よ、急いでください。香料の山々の上のかもしかや、若い雄鹿のようになってください」。

啓 11:15 第七の御使いがラツパを吹いた。すると、天に大声があつて言った、「世の王国は、わたしたちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」。

- A. そのような祈りは、花婿としてのキリストと、花嫁としての愛する者との、新婚の愛の中にある結合と交わりを描写しています。それは、キリストを愛する者であるヨハネの祈り(聖書の結論の言葉として)のようであり、彼の神聖な愛におけるキリストと召会に関する神の永遠のエコノミーを啓示しています——啓 22:20。

啓 22:20 これらの事を証しする方が言われる、「しかり、わたしはすぐに来る」。アーメン。主イエスよ、来たりませ!

- B. 「主が来られる時、信仰は事実となり、祈りは賛美に置き換わります。愛は影のない完全なものとなり、わたしたちは罪のない領域で主に仕えます。それは何という日でしょう!主イエスよ、早く来てください!」——ウオッチマン・ニー。(ウオッチマン・ニー全集、第 23 巻、「歌の中の歌」、第 6 区分)。